

学校での「学びカフェ」の実践（3 事例）

<事例 1>

小学校研究主任教諭の事例です。赴任した小学校では、一斉授業が多く、先生が一方向的に話す授業スタイルが定着していました。そこで、従来の授業スタイルを改善し、より生徒主体な学びを実現したいという思いを持つようになったそうです。まずは先生方と方向性を共有するために、マネジメント講座を通して知った「学びカフェ」を校内で作ることを計画。職員同士が気軽に話せる場を作ろうと形から入っていきしました。部屋の整理から始めると他の先生もしだいに集まり、「クロスを引いたら?」「本を置いてみたら?」とアイデアを出してくれました。1回目「夏休みの思い出を話す」のテーマで実施した「学びカフェ」には、普段あまり職員室で話をしない先生も来てくれ、いつもは話せない方と話したり、共通点が見つかったりしました。次第に教職員の参加者が増え、普段話さない先生同士が交流する機会が増え、声をあげたことで、味方が自然に増えたことを実感。しかし、日常業務が再開すると、学びカフェを継続することが難しくなるという課題も浮上。そこで、コーヒーを配ったり、お菓子を配ったりするなど、気軽に立ち寄れる機会を設けることで、教職員間のコミュニケーションを促進する方法を模索しているということです。（学びカフェづくりを通して、教職員の主体性が育まれるとともに、学校全体の活性化に繋がる可能性を感じた一事例です。）

<事例 2>

「教える・教えられる」の従来の一対一の指導形式からの脱却を目指し、「解決策をみんなで考える研修」の在り方を模索した小学校教諭の事例です。ある研修において解決思考アプローチを取り入れた際、教職員が年齢や経験に関わらず、全員が主体的に考えを出し合い、互いを尊重し合う雰囲気ができ、初任者も積極的に意見を出し、自身の成長を実感していたそうです。若手教員は、経験豊富な教員との対話を通して学びたいと考えている一方で、自分の考えを自由に表現できる場を求めており、若手教員の意見を尊重しつつ、彼らの成長を促すような研修のあり方はどうしたらいいのか。また、互いを尊重し、安心して意見を出し合い、全員が主体的に考えながら共に問題解決に取り組む研修にするにはどうしたらいいのか新たな研修のカたちについて考えながら取り組まれているということでした。事例から教職員が互いに学び合い、共に成長できる研修の重要性について考えさせられました。

<事例 3>

小学校の教頭先生が、学びカフェで支援学級と通常学級の先生が情報交換する様子を発表されました。その内容に感銘を受けた受講者が、自身の学校でも同様の取り組みをしたいとオンラインでの参加を申し出て、次の学びカフェに招待する計画が持ち上がりました。マネジメント講座を通して、学校間の垣根を越えた学び合いを創出した事例です。